

令和6年度東葛北部地域保健医療連携・地域医療構想調整会議 小委員会の開催結果について

1 開催概要

日時：令和6年12月19日（木）

参加者：委員（5市医師会、3保健所）、市（5市）、
小児二次医療機関、オブザーバー（小児医療協議会）、
県医療整備課、松戸保健所

2 開催の経緯

東葛北部地域では小児人口の増加や小児科医の不足・高齢化等により小児医療体制（特に夜間休日の一次救急、二次・三次救急）が、脆弱な状況にある。

令和6年2月に東葛北部地域5市医師会から知事宛てに小児・周産期医療体制に関する陳情書が提出され、また、これまでの東葛北部保健医療連携・地域医療構想会議においても小児医療体制について小委員会において検討が必要との意見が複数あったため、小委員会を開催し対応について検討することになった。

3 協議・検討内容

- （１）地域（各市医師会）から寄せられた課題及びその解決策案について説明
 - （２）県が実施している事業、把握しているデータの説明
 - （３）圏域内市（５市）から各市の現状について説明
- 説明内容を踏まえ、意見交換を行った。

4 委員、出席者からの意見

(1) 小児一次救急

- ・ 休日夜間診療所を全ての市で単独で設置・運営していくのは困難。
オンライン診療の活用も検討する。
- ・ 各市でデータを収集・共有した上で、対応について5市で検討する。
(患者居住地、時間帯、重症度等)
- ・ 保護者への啓発が重要であり、さらに家庭看護力を上げることも必要。
#8000が活用できる。
乳幼児の保護者等に対する講習会の東葛北部地域での開催。
- ・ 小児患者を診察できる医師の養成が必要。
小児救急地域研修事業への東葛北部地域の医師の積極的な参加。
- ・ 一次救急を担う医師への外因系疾患に対するトレーニングが必要。

4 委員、出席者からの意見

(2) 小児二次、三次救急

- ・ 救急隊の疲弊。県で選定療養費の徴収を検討することもある必要。
- ・ 広域化が必要。
- ・ 各市が二次・三次医療機関のデータを収集し、5市及び医療機関でデータを共有した上で検討する。（患者居住地、時間帯、重症度等）

(3) 共通

- ・ 0.5次（#8000）、一次、二次、三次の層構造の構築が必要。
- ・ 広域化には、各市において予算措置、人的措置が必要。
- ・ 医師の確保には、十分な報酬・インセンティブが必要。

5 今後の対応

(1) テーマ（分野）ごとの検討

- ・ テーマ（分野）ごとに関係者と連携し、今後の取組みについて具体的に検討する。

①小児一次救急

②小児二次・三次救急

- ・ 検討に必要なデータの収集、共有
各市・医療機関で収集しているデータ（受診状況・搬送状況）の確認、自治体間での共有。不足データがあれば共通した情報を収集する。

①小児一次救急

（各市の小児夜間休日診療の運営体制及び実績に関する調査）

令和7年2月調査実施。

今後取りまとめ及び共有を行う。

②小児二次・三次救急

令和7年度実施予定

5 今後の対応

(2) 小児医療体制以外のテーマ（分野）に係る検討

小児医療体制以外のテーマ（分野）についても、必要に応じて検討を行う。

①周産期医療

周産期医療体制の課題・解決策等について、関係課が周産期医療関係者にヒアリングを行う。

②その他

(3) 令和7年度小委員会の開催

- ・テーマ（分野）ごとの検討を踏まえ、適宜開催